

## 国際小児歯科保健協力

－ネパールでの経験から－



九州歯科大学特任教授

NGOネパール歯科医療協力会理事長 **中村 修一**

### 略 歴

1969年 九州歯科大学卒業  
1982年 九州歯科大学助教授（生理学講座）  
2003年 ネパール歯科医療協力会理事長  
2007年 九州歯科大学国際交流・国際協力担当教授  
2009年 九州歯科大学退職  
2009年 九州歯科大学特任教授  
2011年 1989年からネパール歯科医療協力隊隊長として24回参加  
現在に至る

1989年から始めたネパールにおける国際保健医療協力は22年が経過した。この間24回のミッションを現地に派遣した。現地ではテチャー村をはじめに22のフィールドで20項目の保健医療プロジェクトを展開した。このうち歯科診療総数は14,539人、保健活動対象者数は95,695人で合計116,304人となる。1次隊からミッションに参画した隊員の延べ人数は693名を数える。

プロジェクトはplan・do・seeの繰り返しであり、試行錯誤の連続であったが、今振り返ると4つのステージを経過して今日に至っている。第1ステージは歯科診療・調査期で途上国のニーズに適応できる歯科診療システムを開発した。同時に村人の口腔の疾病構造調査、食生態調査、口腔保健行動調査、健康観調査などを実施した。第2ステージはヘルスケア導入期でフッ素洗口や学校歯科保健やプライマリーヘルスケアを展開した。第3ステージは人材育成期で主に学校の先生を対象とした口腔保健専門家の養成プロジェクトを実施した。第4ステージは地域歯科保健開発期で第3ステージまでに開発した種々の資源を統合してネパール人専門家による村単位の歯科保健開発を展開している。

ネパールにおけるこれらの活動ははじめからライフステージを通じた診療や保健活動を目標としたが、結果として「こども」の保健活動に収斂したともいえる、今回はプロジェクトの展開を通じてことの顛末について報告したい。